



第46回九州アマチュア選手権競技

競技報告 (2016/ 5.19 - 22)

写真と記事 : M. Kikutake

大会最少ストロークの通算9アンダー 279

玉城海伍 (カヌチャ) が初優勝

沖縄県勢Vは12年ぶり

第46回九州アマチュア選手権競技は5月19日から4日間、長崎県大村市の大村湾カントリー倶楽部オールドコース(7045ヤ、パー72)で行われ、大阪学院大2年の玉城海伍(カヌチャ)が通算9アンダー、279で初優勝した。優勝スコアの9アンダーは4日間72ホールストロークプレーになった2003年大会以降の最少ストロークで、これまでの記録は2011年に時松源藏(筑紫ヶ丘)がマークした7アンダーだった。また、沖縄県勢の優勝は2004年大会の正岡竜二(沖縄国際)以来、12年ぶり。

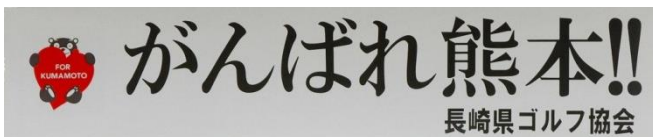
大学勢の争い

比嘉一貴 (沖縄国際) は2位に泣く

最終日の22日は、首位の比嘉一貴(沖縄国際、東北福祉大3年)を1打差で玉城と、連覇を狙う古川雄大(大博多、東海大九州1年)が追う展開。優勝争いは最終組の大学生3人に絞られたが、2バーディー、2ボギーで72の比嘉、2バーディー、3ボギーの73の古川、とともにスコアを伸ばせず、逆に入出りの激しいゴルフながら17番で比嘉をとらえた玉城が、最終18番バーディーで逆転、1打差をつけて栄冠を勝ち取った。

1打差の2位は比嘉で、さらに2打差の6アンダーで3位古川だった。

比嘉はJGAのナショナルチームのメンバー。九州アマは2012年の5位タイ以来、毎年のように優勝争いに絡みながら、今年もタイトルには見放された。



今年の連盟主催競技の九州選手権は「九州女子選手権」が開幕戦として組まれていたが、4月14、16日に襲った2度の震度7という大地震「熊本地震」に

よって延期となり、第2戦の九州アマチュア選手権が初戦となった。

その九州アマは1次予選に11県地区から計1080人が参加、本戦出場を目指した。しかし、1次予選直後の「熊本地震」によって2次予選は熊本県地区選手の多くから辞退が相次ぐ結果となった。

そんな中、決勝大会には158人(欠場6人)が参加。4日間とも好天に恵まれ、白熱した試合展開が繰り広げられた。

試合は初日、玉城が15番（パー5）でイーグルを奪うなど7アンダーをマークして単独トップ。これを1打差で比嘉が追った。2日目の玉城は3バーディー、1ボギーの70で通算9アンダーとし、首位を維持。比嘉は2バーディー、3ボギーの73とスコアを落としたものの、4打差で2位にとどまった。さらに1打差の3位に古川と、昨年日本ジュニアで連覇を達成し、今年、熊本・秀岳館高に進学した15歳の池田悠希（佐世保国際）の2人がつけた。

通算157、80位タイまでの87人が通過した3日目の決勝ラウンドは、1イーグル、3バーディー、2ボギーの69で回った比嘉が通算8アンダーで首位に浮上。玉城は1イーグル、2バーディーを奪いながらも1ダブルボギー、4ボギーの74で一步後退。この日69の古川が玉城とともに比嘉に1打差の2位タイに並んだ。後続の4位には葛城史馬（中津、大阪学院大1年）がつけたが、首位とは4打差がついていた。

14人が日本アマ出場権

この試合の結果、4オーバー、292の13位タイまでと、5オーバー、15位タイの3人のうち最終日成績上位2人の計14人が第101回日本アマチュア選手権（7月5日から4日間、北海道ブルックスCC）への出場権を獲得（2位の比嘉一貴と6位タイの池田悠希はナショナルチームメンバーで出場資格があり除外）。大学生やジュニア主流の近年の九州アマ界にあって、4日間通算4オーバーと意地を見せた55歳ベテラン、大倉清（浮羽）も出場権をつかんだ。

また、今年の九州オープン選手権（8月4日から4日間、宮崎県・宮崎レイクサイドGC）へは301までの上位30人（301の3人中、2人を最終日スコア上位で選抜）が出場権を得た。



臆することなくつかんだ栄冠

強豪を倒して九州アマの頂点に立った玉城海伍



17番ホールを終わったところで玉城と比嘉が8アンダーで並び、一步遅れて古川7アンダー。最終組のデッドヒートは最終ホールまでもつれ込み、プレーオフの可能性も、と思われたところでの決着だった。

比嘉はグリーン手前のバンカーから寄せてOKパー。アプローチを奥のカラーにはずしていた玉城は、「プレーオフはいや。入れに行った」と言い、10メートル弱のフックラインを一発でねじ込んで、バーディー。あっけなくけりがついた。

2バーディー、2ボギーと手堅いゴルフだった比嘉に対し、玉城は暴れまわった。2番でボギーをたたいたかと思うとすかさず3番バーディーで返し、4、5番バーディーで伸ばした。ところが、8番ボギーのあと9番では左の林に入れて、出すだけ。第3打はグリーン奥にはずし、おまけにアプローチでチョロってダブルボギー。折り返し後は、右ドッグレッグの11番パー5（532ヤード）で池をショートカットして残り130ヤードをピッチングで1.5メートルにビタピン。「最悪バーディー」と思っていたらしいが、あっさりねじ込んでイーグルだった。終わってみれば、1イーグル、6バーディー、4ボギー、1ダブルボギーと実に入出りの激しいゴルフだった。

玉城が追った相手の比嘉はJGAのナショナルチームメンバーで一昨年の日本アマ2位、最新アマチュアランキング2位の実力者。対する玉城はアマランク46位。そんな比嘉について、「意識しても仕方がない。名前に恐れることもなかった。だって、小学校時代から知っているんだから」と言い、「朝から気持ちは開き直っていた」そうだ。

九州アマは3回目の出場で得た栄冠。首里高3年の時、左手甲を痛め、2か月ぐらいボールを打てない時期があった。この時、ランニングを始めたのが、体幹トレなど本格的なトレーニングへのきっかけになったという。身体も絞れて現在 174 ㍓、76 キロ。大学に進学した昨年の九州アマ6位から、今年は多くのライバルたちを飛び越えて、頂点に立ったのだ。文字通りの「怪我の功名、か。

将来はプロ志望で、好きなゴルファーはアダム・スコット(豪)。この後は日本アマが控えるが、昨年までの決勝マッチプレーはなくなり、ストローク競技になった。昨年はマッチプレー1回戦で敗退。今年の目標は「僕はストローク競技の方がいい。目標は優勝です」と歯切れがよかった。

(写真は健闘をたたえあう比嘉一貴Ⓔと玉城海伍Ⓕ、奥は古川雄大)



比嘉一貴の話 パターが入らなかった。ドライバーも気持ちよく振れなかったし、ショットも今日は悪かった。

(4日間のうち)今日が一番ダメ。日本アマは、勝つ気持ちしか持ってない。

古川雄大の話 ショットはそう悪くはなかったが、気持ちだけが前のめりになってしまった。調子とショットがかみ合わなかった。けど、いい緊張感で回れて楽しかった。(優勝した)去年の自分よりも今年の方が成長していると思う。

55歳ベテラン大倉清(浮羽)も意地を見せる



〇…4オーバーの17位で迎えた最終日。「イーブンパーまで戻したかったが…」と振り返った大倉清。3番で1.3メートルのバーディーパットを決めて幸先いいスタートだったが、このあとは2メートル前後のバーディーパットがことごとく嫌われて、フラストレーションのたまる展開になってしまった。結局はあがりの17、18番でダボ、ボギーとしてイーブンパーのフィニッシュ。限られた試合数の中でのラウンドで、「試合勘がちょっと…」と悔やんだ。

しかし、学生、ジュニアが主力を占める中であって、55歳で日本アマ出場権を勝ち取ったのは、さすがの一語に尽きる。かつては日本を代表するトップアマとして活躍。九州オープンもアマで制し、強豪としてならした。そんな大倉もシニア入りの55歳。以前は、若者を叱咤激励するため、厳しい言葉もこの人の口から出ていたが、この日は、若い世代とのラウンドに「学生は強い。周りで言うほどマナーも悪くない。そんな一生懸命をみると、いつの間にか応援している自分がありました」と丸くなった印象の大倉だった。